

平成28年度日進市市民意識調査結果の分析について

- 1 「浄化槽・下水道などの衛生対策」について P.1
(平成28年度調査において満足度が上昇した項目)

- 2 「歩道の整備」、「自転車や徒歩による道路の利便性」について P.7
(平成28年度調査において重要度が高いものの満足度が低い項目)

1 「浄化槽・下水道などの衛生対策」について（平成28年度調査において満足度が上昇した項目）

(1) 市民意識調査の結果（主観的な数値）

①満足度の推移

○「浄化槽・下水道などの衛生対策」について、平成26年度から平成28年度にかけて、「満足だと感じている人の割合」や、得点に基づく相対的な順位が上昇しました。

年度	得点 ^{※1}	満足だと感じている人 ^{※2} の割合（%）	順位
平成28年度	0.49	54.4	5
平成26年度	0.43	50.9	8
平成23年度	0.38	50.7	8

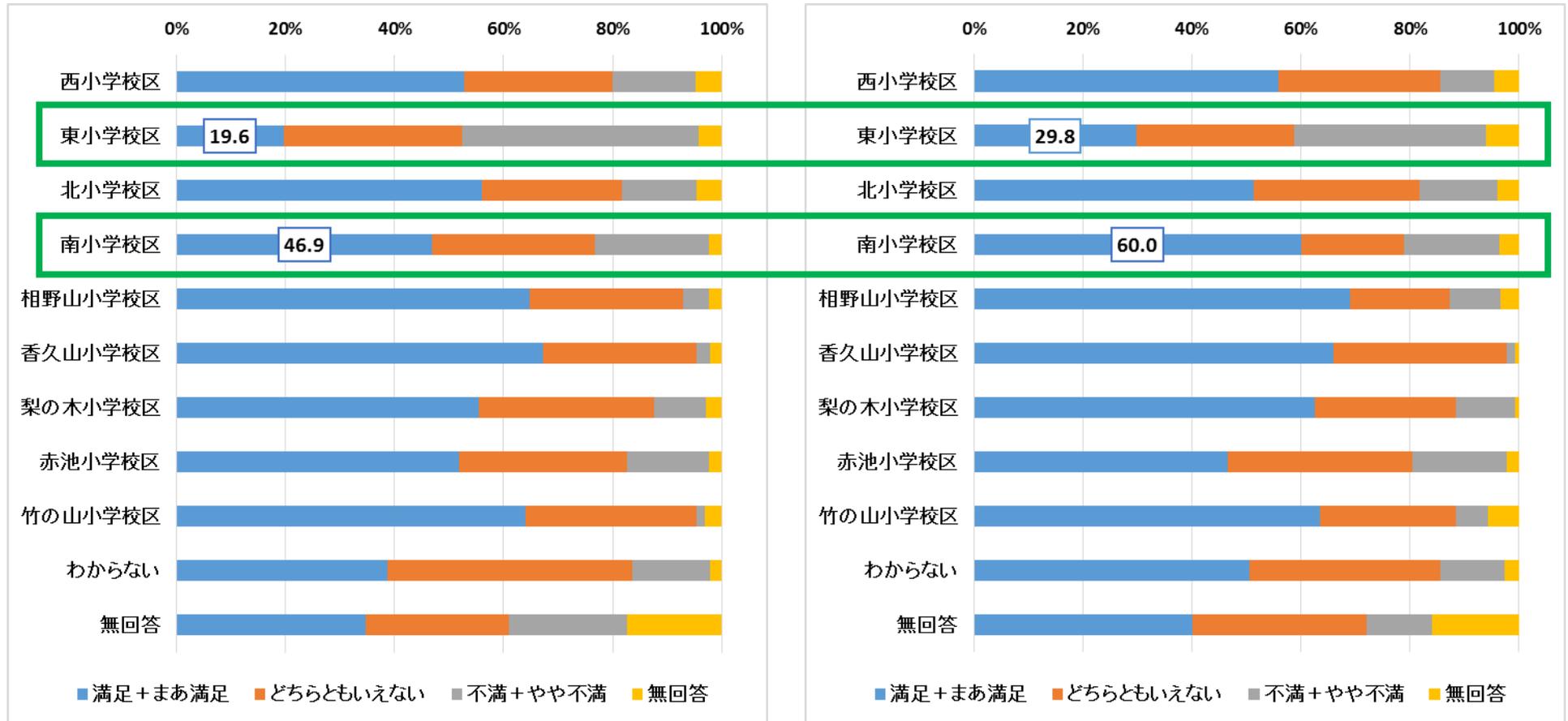
※1 次の5段階の評点を付け、回答者の平均となる得点を算出

満足度	評点	満足度	評点
満足	+2点	やや不満	-1点
まあ満足	+1点	不満	-2点
どちらともいえない	0点		

※2 「満足」又は「まあ満足」と回答した人の合計

②小学校区別にみた「浄化槽・下水道などの衛生対策」について満足だと感じている人の割合の推移

○平成26年度調査と平成28年度調査を比較すると、「東小学校区」と「南小学校区」において、満足だと感じている人の割合が10ポイント以上増加しており、全体の満足度が上昇した要因のひとつと考えられます。



平成26年度調査

平成28年度調査

(2) 下水道・浄化槽の普及状況（客観的な数値）

①汚水処理人口※等

（各年度末日現在）

区分	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年
汚水処理人口(人)	70,783	71,900	73,418	75,491	79,261
汚水処理人口普及率(%)	82.9	83.5	84.3	85.5	88.9

※下水道、合併処理浄化槽等の汚水処理施設により汚水を処理している人口の合計

②下水道普及率

（各年度 4 月 1 日現在）

区分	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年
供用開始区域面積 (ha)	835.37	869.26	888.63	910.17	941.02
下水道普及率(%)	65.4	68.0	68.9	70.2	72.3

③浄化槽等使用人口

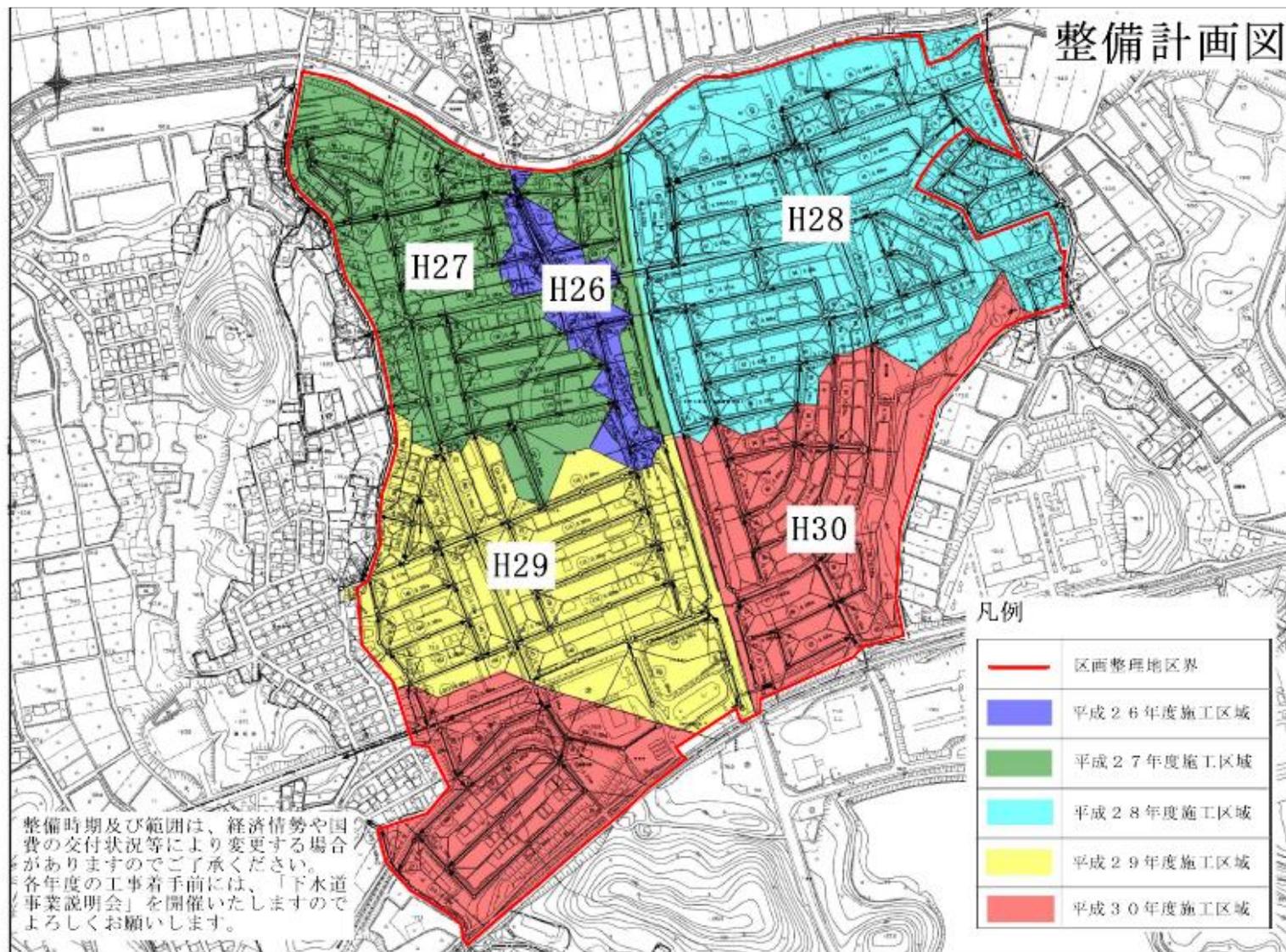
（各年度末日現在）

区分	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年
合併処理浄化槽使用人口(人)	14,781	13,192	13,270	13,355	14,581
合併処理浄化槽人口普及率(%)	17.1	15.3	15.2	15.1	16.3

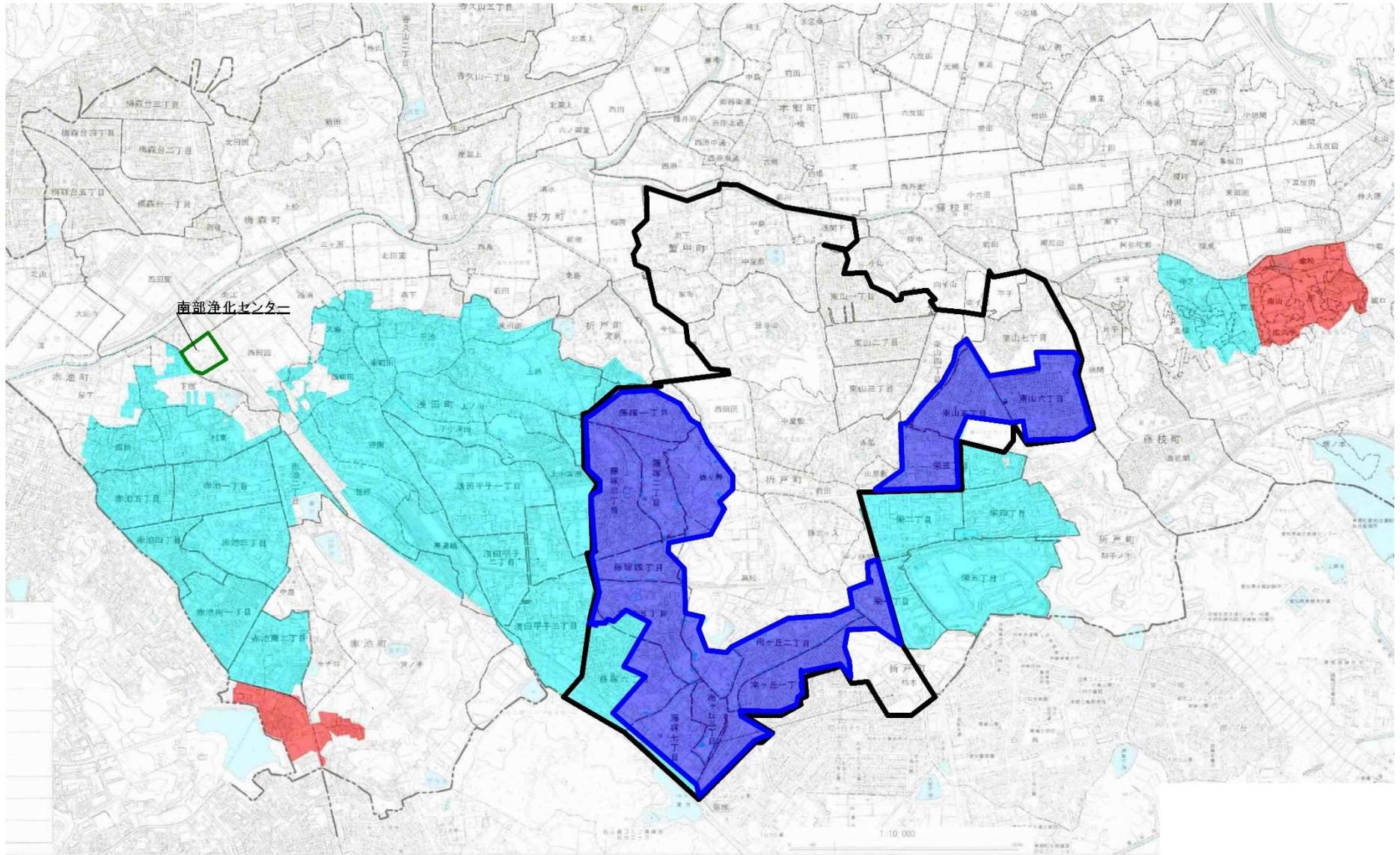
※浄化槽については、単独処理浄化槽やし尿くみ取り便所を使用している方が小型合併処理浄化槽への付け替えを促すため、「合併処理浄化槽設置補助事業」による補助金を交付しています。

(3) 最近の主な公共下水道の整備状況

①日進米野木駅前特定土地区画整理地内（東小学校区）における下水道整備状況



②南小学校区における平成 23 年度以降に供用開始となった区域



南小学校区
 平成 23 年度以降供用開始区域
 供用開始済み区域
 平成 29 年度供用開始区域

(4) まとめ

○直近5年程度の間で公共下水道が整備された地区を含む小学校区において、「浄化槽・下水道などの衛生対策」についての満足度が向上していることが分かります。

○公共下水道等の整備は、市民の方にとっても日常生活の環境改善が実感しやすいものであることから、公共下水道整備事業等が進み、汚水処理人口普及率等（客観的な数値）が向上することと、市民意識調査における市民の満足度（主観的な数値）の上昇との間には一定の関連性があるものと考えられます。

2 「歩道の整備」、「自転車や徒歩による道路の利便性」について（平成28年度調査において重要度が高いものの満足度が低い項目）

（1）市民意識調査の結果（主観的な数値） 重要度及び満足度の推移

○「歩道の整備」、「自転車や徒歩による道路の利便性」について、重要度及び満足度の得点に基づく相対的な順位に大きな変動はありませんが、満足度については、得点や「満足だと感じている人の割合」は、少しずつ上昇しています。

歩道の整備

年度	重要度			満足度		
	得点	重要だと感じている人の割合（％）	順位（高い順）	得点	満足だと感じている人の割合（％）	順位（低い順）
平成28年度	1.31	83.2	7	-0.21	29.9	4
平成26年度	1.35	83.1	7	-0.24	26.6	4
平成23年度	1.03	82.4	7	-0.36	24.8	3

自転車や徒歩による道路の利便性

年度	重要度			満足		
	得点	重要だと感じている人の割合（％）	順位（高い順）	得点	満足だと感じている人の割合（％）	順位（低い順）
平成28年度	1.16	72.7	16	-0.20	24.3	5
平成26年度	1.17	73.5	15	-0.23	23.3	5
平成23年度	1.11	72.5	17	-0.32	21.6	5

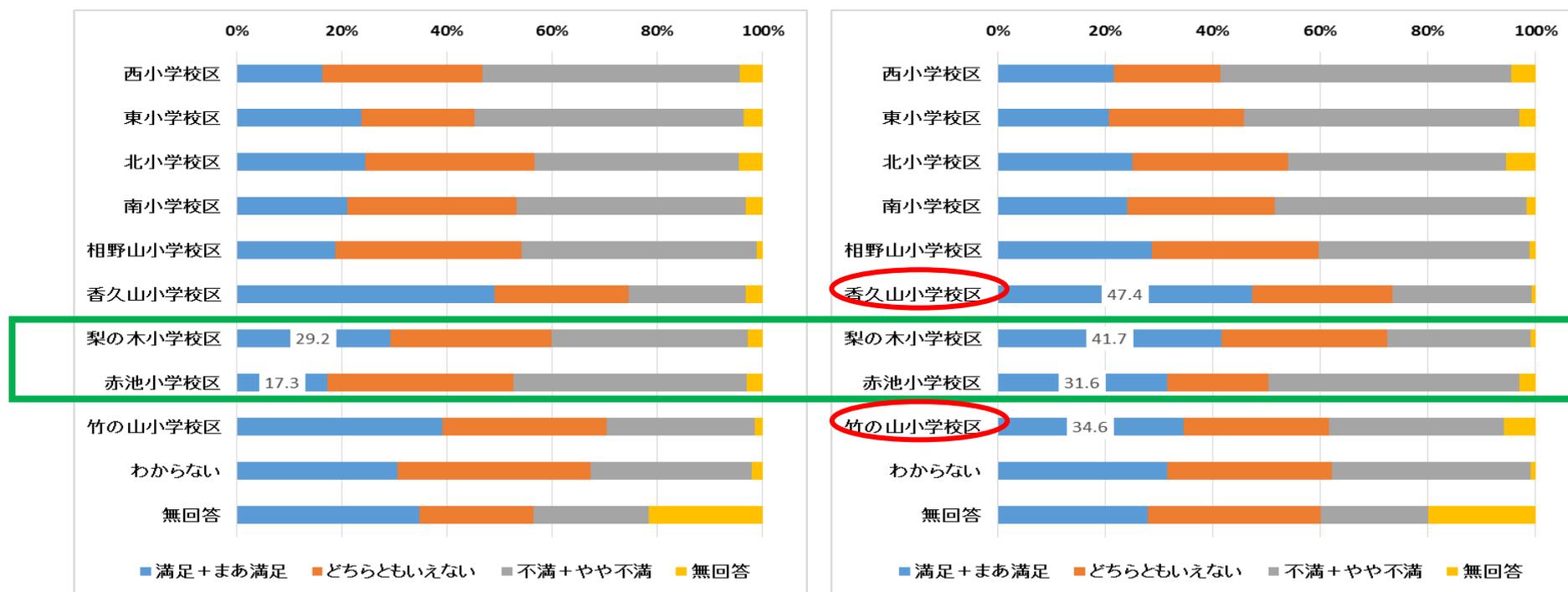
(2) 小学校区別にみた重要度及び満足度の推移

①小学校区別にみた「歩道の整備」について満足だと感じている人の割合の推移

「歩道の整備」について、小学校区別で差が生じているのかを分析しました。

○区画整理事業による街並みの整備が行われた香久山小学校区や竹の山小学校区において、他の小学校区別と比較して満足だと感じている人の割合が高くなっています。

○平成26年度調査と平成28年度調査を比較したところ、梨の木小学校区及び赤池小学校区において、小学校区別にみた満足だと感じている人の割合が上昇しています。



平成26年度調査

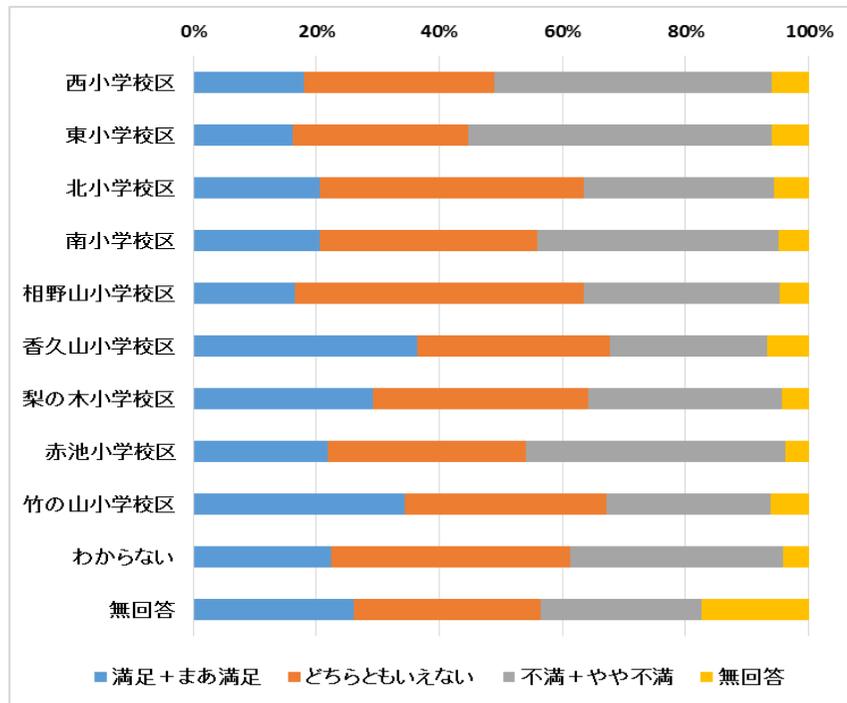
平成28年度調査

②小学校区別にみた「自転車や徒歩による道路の利便性」について満足だと感じている人の割合の推移

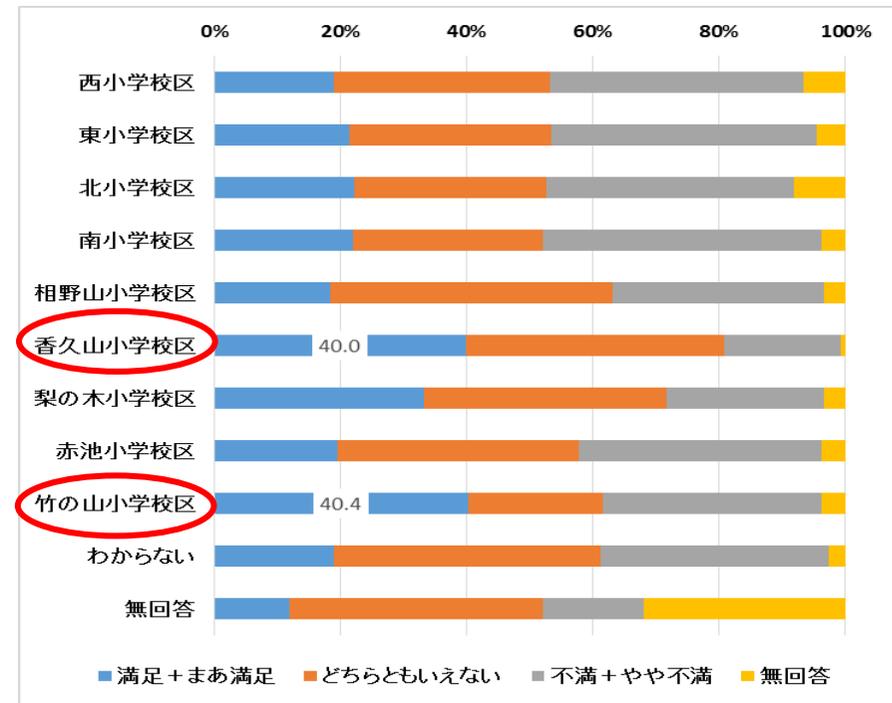
「自転車や徒歩による道路の利便性」について、小学校区別で差が生じているのかを分析しました。

○区画整理事業による街並みの整備が行われた香久山小学校区や竹の山小学校区において、他の小学校区別と比較して満足だと感じている人の割合が高くなっています。

○平成26年度調査と平成28年度調査を比較したところ、小学校区別にみた満足だと感じている人の割合について、特定の小学校区の値が上昇するといったような変化はみられません。



平成26年度調査



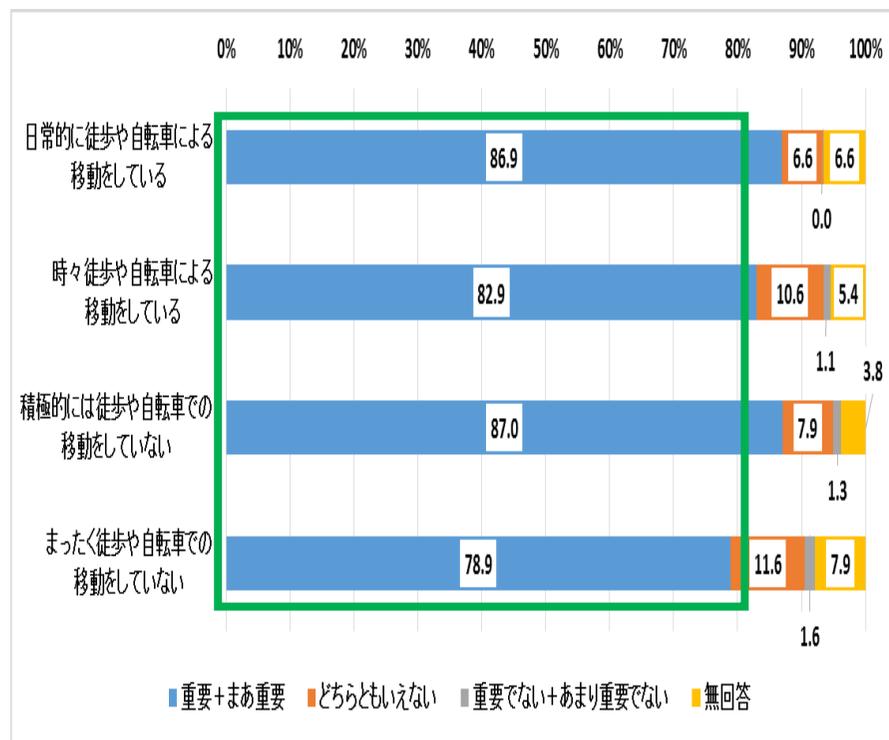
平成28年度調査

(3) 市内を移動する際の移動手段別にみた重要度及び満足度の推移

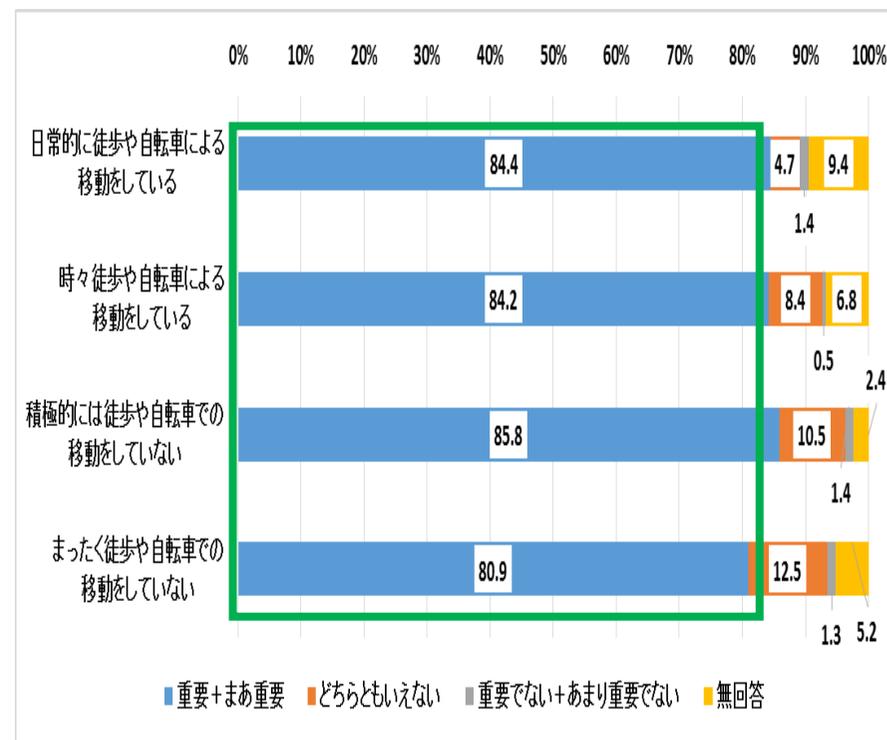
①市内を移動する際の移動手段別にみた「歩道の整備」について重要だと感じている人の割合の推移

「歩道の整備」について、移動手段が徒歩や自転車の人とそうではない人の間で重要と感じる割合に差が生じているのかを分析しました。

○平成26年度調査と平成28年度調査を比較したところ、移動手段ごとの間で重要だと感じている人の割合の差が少なくなっています。



平成26年度調査

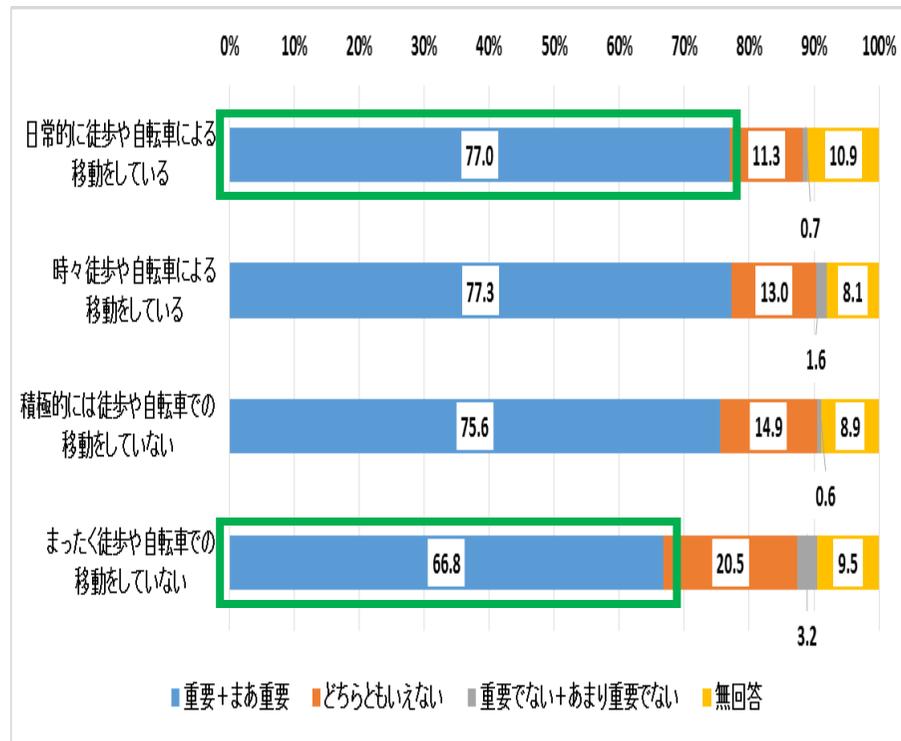


平成28年度調査

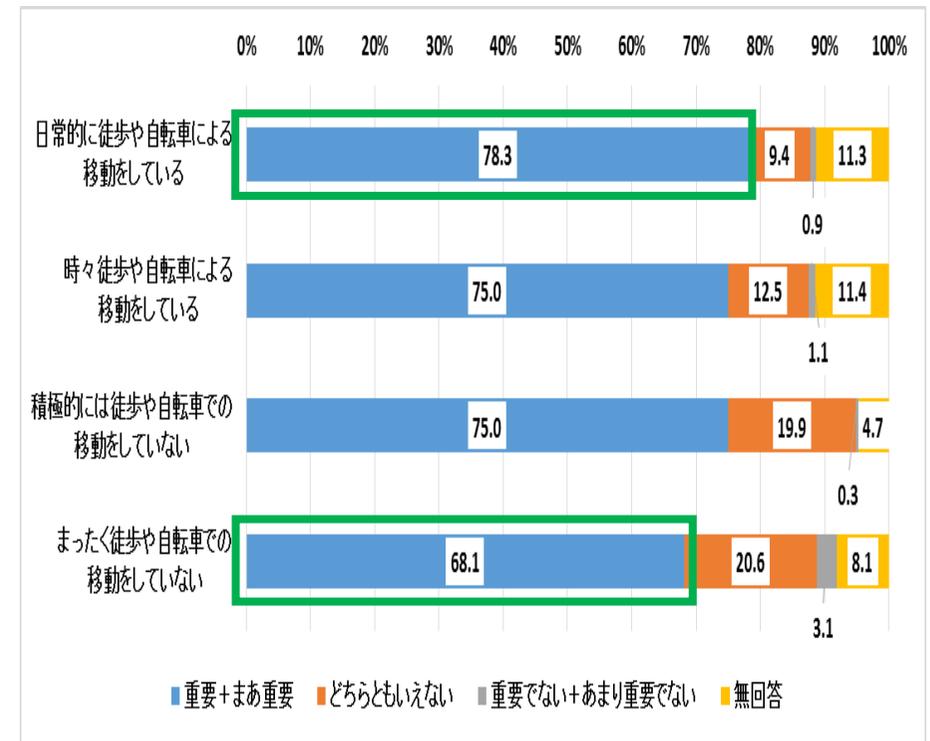
②市内を移動する際の移動手段別にみた「自転車や徒歩による道路の利便性」について重要だと感じている人の割合の推移

「自転車や徒歩による道路の利便性」について、移動手段が徒歩や自転車の人とそうではない人の間で重要と感じる割合に差が生じているのかを分析しました。

○平成26年度調査と平成28年度調査のいずれにおいても、日常的に徒歩や自転車による移動をしている人と、まったく徒歩や自転車での移動をしていない人との間では、重要だと感じている人の割合に10ポイント以上の差があります。



平成26年度調査

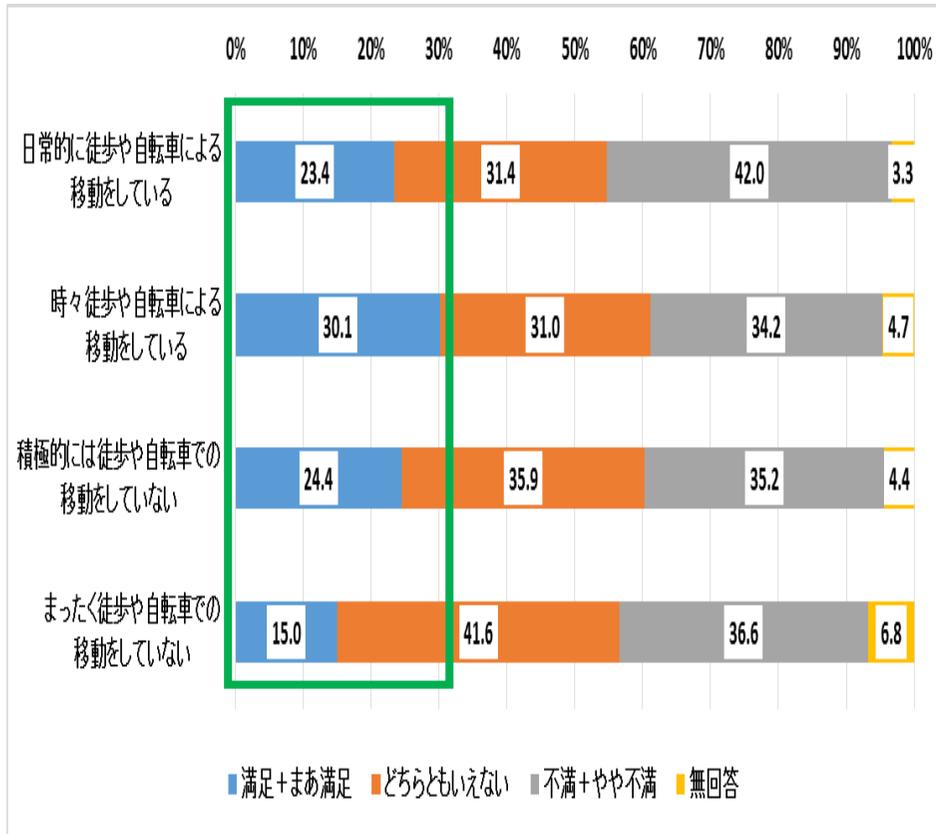


平成28年度調査

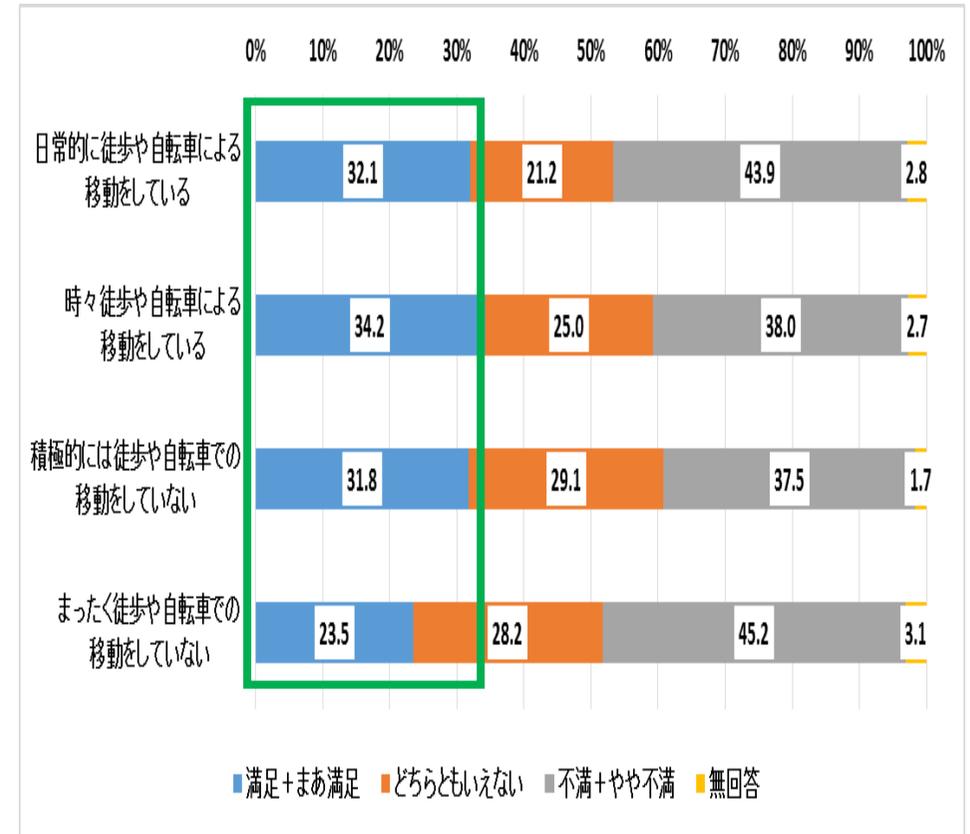
③市内を移動する際の移動手段別にみた「歩道の整備」について満足だと感じている人の割合の推移

「歩道の整備」について、移動手段が徒歩や自転車の人とそうではない人の間で満足度に差が生じているのかを分析しました。

○平成26年度調査と平成28年度調査を比較したところ、いずれの移動手段においも、満足だと感じている人の割合が増加しています。また、「どちらともいえない」と回答した人の割合は減少し、不満だと感じている人の割合が増加しています。



平成26年度調査



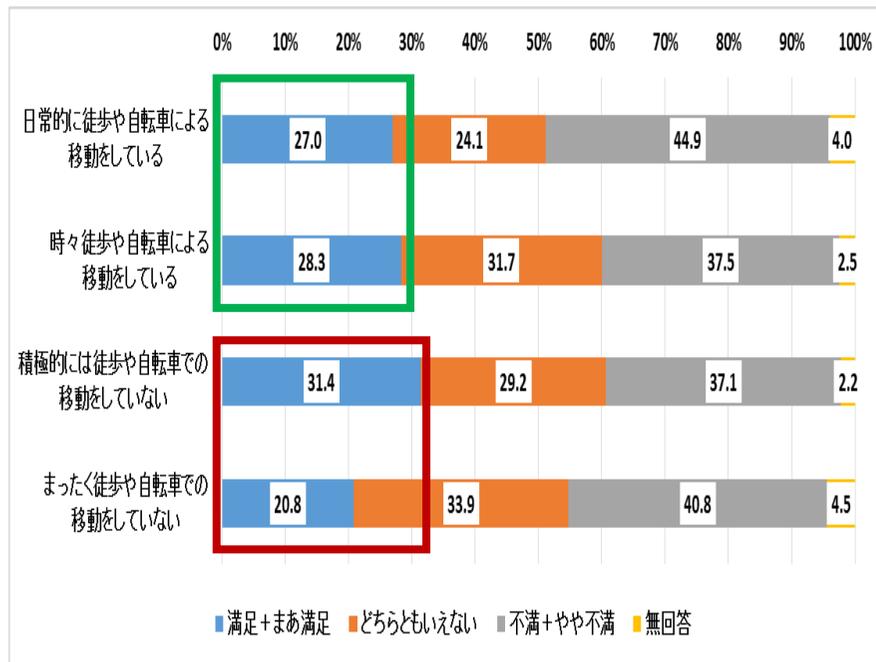
平成28年度調査

④市内を移動する際の移動手段別にみた「自転車や徒歩による道路の利便性」について満足だと感じている人の割合の推移

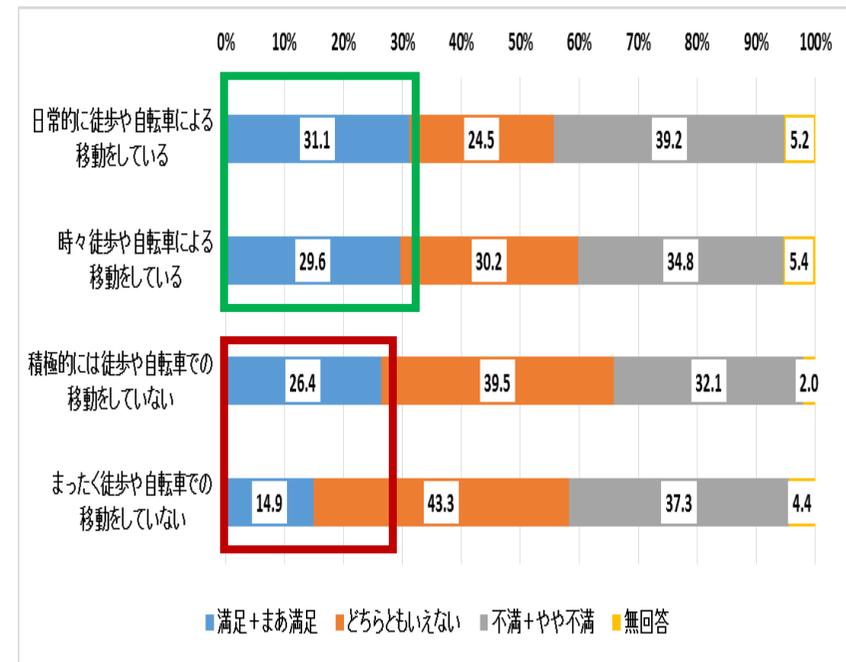
「自転車や徒歩による道路の利便性」について、移動手段が徒歩や自転車の人とそうではない人の中で満足度に差が生じているのかを分析しました。

○平成26年度調査と平成28年度調査を比較したところ、徒歩や自転車による移動をしている人において、満足だと感じている人の割合が上昇しています。

○一方、徒歩や自転車による移動をしていない人においては、「どちらともいえない」と回答した人の割合が増加し、満足又は不満だと感じている人の割合が減少しています。



平成26年度調査



平成28年度調査

(4) 自転車歩行者道整備事業等について

①総合計画における位置づけ

○第5次日進市総合計画に掲げられている5つの重点プロジェクトのうち、「3 安全・安心な暮らしづくりプロジェクト」の中で、「歩道・自転車道の整備」や「生活道路等の安全施設整備」が位置づけられており、本市の重要な施策のひとつとなっています。

【プロジェクトの展開イメージ】



【プロジェクトを構成する主な事業】

(2) 「交通安全」関連の概要

主な事業	主な内容	関連する主な施策
交通安全対策の実施	路上駐車対策等、道路環境の整備を進める。子ども、高齢者を対象に交通安全教室を開催する。	交通環境整備による安全性の確保
通学時の交通安全対策	交通指導員、スクールガード・リーダーを配置する。	教育環境の整備
歩道・自転車道の整備	歩行者・自転車利用者が、安全で安心して利用できる道路を整備する。	歩行者・自転車ネットワークの形成
生活道路等の安全施設整備	歩行者・自転車利用者が安全に通行できる設備を整備する。	交通環境整備による安全性の確保
安全マップの作成支援	地域単位での安全マップの作成・見直しを支援する。	交通安全活動の推進

②第7次実施計画（平成29年度～平成31年度）における位置づけ

○第7次実施計画では、道路整備や自転車歩行者道整備に関連する事業で向こう3年間に実施するものとして、次の事業が掲げられています。

基本目標3 快適で利便性の高い持続可能な都市づくり

第1節：交通

1. 道路

③幹線道路の整備

事務事業名	細事業名	細事業の概要	28年度	29年度	30年度	31年度
市道黒笹三本木線整備事業（道路建設課）	☆市道黒笹三本木線整備事業	市の幹線道路網等を整備し、道路の利便性向上を進める。	工事	⇒	⇒	—
市道藤島1号線整備事業（道路建設課）	☆市道藤島1号線整備事業		歩道設置工事	⇒	⇒	—
（都）野方三ツ池公園線整備事業（道路建設課）	☆（都）野方三ツ池公園線整備事業		水理解析検討 橋梁予備設計	道路詳細設計	橋梁詳細設計	用地調査 物件調査

(2) 生活道路の整備

②歩行者の安全性の確保

事務事業名	細事業名	細事業の概要	28年度	29年度	30年度	31年度
④交通安全対策事業 (道路建設課)	☆あんしん歩行エリア 整備事業	交通の危険な地区をエリア 設定し、通学路や交差点の カラー塗装等を行う。	継続実施	⇒	⇒	⇒

(3) 道路・橋梁の維持管理

①計画的な維持管理の推進

事務事業名	細事業名	細事業の概要	28年度	29年度	30年度	31年度
④道路維持事業 (土木管理課)	道路長寿命化修繕事業	道路施設の計画的な修繕を 行い、適切な維持管理をす ることで長寿命化を図る。	点検 計画策定 設計 工事	あ ⇒ ⇒ ⇒	点検 ⇒ ⇒	⇒ あ ⇒ ⇒
	☆道路維持事業	区長要望又は通報、道路巡 回により早急に道路改修を 行う。また、街路灯のLE D化を進める。	継続実施 あ あ	⇒ 街路灯 LED化	⇒ あ あ	⇒ あ あ

2. 交通対策

(1) 鉄道の利用促進

②駅前広場の整備拡充

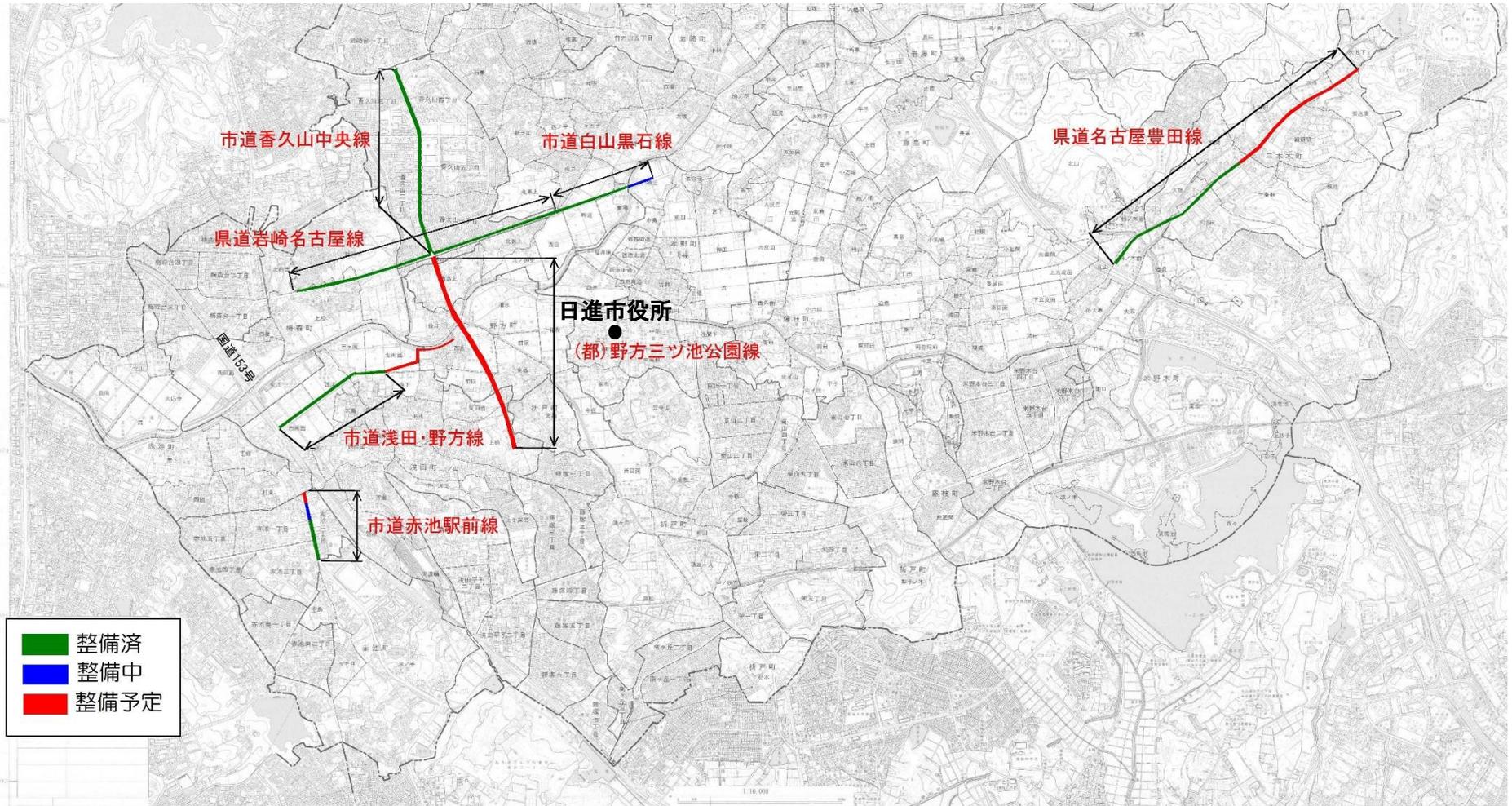
事務事業名	細事業名	細事業の概要	28年度	29年度	30年度	31年度
Ⓢ市道赤池駅前線整備事業（道路建設課）	☆市道赤池駅前線整備事業	赤池駅周辺の円滑な交通処理、利便性向上のため、交通広場の周辺道路整備を行う。	工事	⇒	⇒	⇒

(3) 歩行者・自転車ネットワークの形成

①歩行者・自転車ネットワークの構築

事務事業名	細事業名	細事業の概要	28年度	29年度	30年度	31年度
Ⓢ自転車走行環境整備事業（道路建設課）	自転車走行環境整備事業	市道白山黒石線に自転車通行帯、歩行者専用帯を整備する。	工事	⇒	—	—

③自転車歩行者道整備箇所図





市道赤池駅前線



市道白山黒石線



市道浅田・野方線



市道香久山中央線

④あんしん歩行エリア整備事業

○旧来の道路や市街地、住宅密集地の道路においては道路拡幅や歩道整備等が難しいため、「あんしん歩行エリア整備事業」により、路肩や交差点のカラー塗装を行い、視覚的に歩行者、自転車利用者の安心安全な空間の整備を図っています。

年度	整備小学校区	年度	整備小学校区
平成21～22年度	香久山小学校	平成27年度	赤池小学校
平成23年度	西小学校	平成28年度	相野山小学校
平成24年度	東小学校	平成29年度	梨の木小学校
平成25年度	南小学校	平成30年度（予定）	竹の山小学校
平成26年度	北小学校		



(5) まとめ

○歩道などの道路整備事業は、日常生活における移動のしやすさが向上したり、歩道など安心安全な空間が確保されるなど、生活環境の改善が実感しやすいものであることから、徐々に市民意識調査における市民の満足度（主観的な数値）は上昇しているものと考えます。

○徒歩や自転車で移動をする人としらない人とでは、日常生活のなかで歩道の整備や自転車や徒歩による道路の利便性の向上を実感できる機会が異なると思われるため、その違いが市民意識調査における市民の満足度の違いに影響しているものと考えます。

○歩道の整備や自転車や徒歩による道路の利便性については、市民意識調査における市民の重要度が高いことから、今後も重点プロジェクトや実施計画により自転車歩行者道整備事業や土地区画整理事業を促進し、歩道の確保や自転車道の整備を確実に進めていきたいと考えます。